

## 地域コーディネーターの心得

### ●地域コーディネーターは「応援団のお世話役」です。

「神戸っ子応援団」が地域につくられた「学校の応援団」とするなら、地域コーディネーターは、その応援団のお世話役と言えます。その役割を果たすためにも、まずは、学校のことをよく知ることが大切になります。

学校の教職員と知り合いになって、よりよい関係をつくりましょう。



### ●学校の要望を正しく把握することが重要です。

どのような支援が学校の役に立つのかを考えるためには、学校からの要望の把握が必要です。「教職員の考え」や「本当に必要としている支援は何なのか」など、学校の窓口となる教員としっかり情報交換をすることで、支援ニーズを正しく把握しましょう。

### ●活動を通じて見えてきた問題は、ボランティアの方々にも学校にもきちんと伝えましょう。

地域コーディネーターはボランティアの方々と学校の両者の話を聞くことで、問題点や課題に気付くことがあります。よりよい活動にするために、問題点や課題はきちんと両者に伝え、一緒に解決策を探っていきましょう。

### ●ボランティアの方々和学校が十分に話し合えるように工夫をしましょう。

ボランティアの方々和学校が十分に話し合って、はじめて「協働」が生まれます。「学校・子どもたちのために・・・」から、「学校・子どもたちとともに・・・」となるように工夫しましょう。

### ●ボランティアの方々和学校の教職員、子どもたちが同じ思いを分かち合える活動となるよう、心がけましょう。

ボランティア活動は一方通行ではありません。一緒に活動することで、お互いに学ぶ双方向の活動です。思いを分かち合える活動になるよう心がけましょう。

## ●ボランティアの方々のよき相談相手になりましょう。

ボランティアの方々の「とまどい」や「悩み」の相談にのり、ボランティア活動が円滑に進むよう配慮しましょう。



## ●知り合いを増やしましょう。

地域コーディネーターに大切なのは、「何を知っているか」よりも、「誰を知っているか」です。色々な人と知り合いになり、よい関係をつくっていきましょう。

## ●ボランティア募集には口コミや既存のボランティアの方からの紹介が有効です。

ボランティアを発掘するのは、すでに活動しているボランティアの方から紹介を受けたり、知り合いにお願いしたりするなど、口コミが有効な手段です。さらに、自治会などの地域団体やPTAと連携することで、それらの組織を経由して人材の紹介を受けたり、ボランティアの募集をしたりすることも考えられます。

## ●たくさんの方にボランティア登録をしていただきましょう。

学校支援を継続的に行っていくことや、地域のつながりを深めていくことを考えると、多くの方にボランティアとして参加してもらい、活躍してもらえるようにすることが重要です。ボランティアのやりがいを伝え、ボランティアの輪を広げる工夫をしましょう。

## ●他の学校のコーディネーターと情報を共有しましょう。

近隣の小・中学校の地域コーディネーターは大切な仲間です。情報交換をしたり、ボランティアの人材を紹介しあったり、人材バンクを共有したりすることで、より地域として連携のとれた活動につながっていきます。



## ●できるだけ記録を残しましょう。

応援団の役員や学校と相談して、日々の活動について参加人数やボランティア数の記録や、写真などを残すようにしてください。

## ボランティア活動の心得

- **明るいあいさつ・聞き取りやすい声・丁寧な言葉遣いを心がけましょう。**

はきはきとした態度や明るくさわやかな態度で子どもたちと接しましょう。



- **子どものがんばりや成長を見つけ、たくさんほめましょう。**

ほめられるのが嫌いな子どもはいません。ほめられた喜びが次のやる気や意欲につながるとともに、ボランティアとの信頼関係も深まります。

- **学校や先生の批判は、子どもの前や地域では絶対に言わないようにしましょう。**

もし、疑問に思ったことがあれば、直接学校に話したり地域コーディネーターに相談したりしましょう。

- **活動中、気になることがあれば、地域コーディネーターや先生に遠慮せず相談しましょう。**

些細なことでも、気づいたことやわからないこと、子どもへの対応に迷った時などはそのままにせず、相談しましょう。

- **時には厳しく毅然とした態度で子どもに接することも大切です。**

友達を傷つけるような言動、けがや命にかかわるような行動があった時には、大人として見逃さずしっかり注意しましょう。

- **教えなければいけないということではなく、子どもと共に歩もうとする気持ちを持ちましょう。**



※ 以下のことは禁止されています。絶対に行ってはいけません。

- **支援活動中に知り得た子どもの個人情報や自分の家族にも絶対に口外してはいけません！（守秘義務）**
- **いかなる場合も体罰は厳禁！**

## ボランティア活動をする上での留意点

### ●学校の要望に沿って、支援を行うことが大切です。

学校は国で定められた学習指導要領に基づいて、子どもたちや地域の実情に応じて学校独自の教育目標を定め、その達成に向けて、意図的・計画的に教育活動を進めています。教育活動の主体者・責任者は学校です。ボランティアはあくまでも支援者として学校側のニーズに応じて活動するスタンスを忘れないようにしましょう。

### ●学校内に入るときには身分を示す名札が必要です。

危機管理の面から、通常、授業中は校門を閉めています。インターフォンで来校の旨を職員室へ伝えてください。また、来校者は校内では名札をつけたり、玄関で記名したりしています。  
※学校によって違いがあります。



### ●学校の窓口は教頭か地域連携担当の先生になります。

相談ごとがある場合は、まず、学校の窓口となる先生に連絡してみましょう。その後、内容によって担当の教職員を紹介される場合もあります。

### ●学校の教職員と打ち合わせできる時間は限られています。

特に子どもが活動している時間帯は、ゆっくりと話す時間はありません。放課後の時間や、連絡のとりやすい時間を事前に確認しておきましょう。

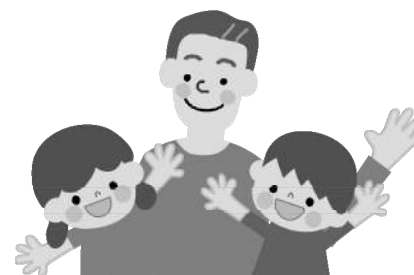


### ●活動を予定していた日が急にキャンセルになる場合もあります。

子どもたちの実態や天候、突発的な事故や行事などにより、急遽、予定を変更する場合がありますので、心得ておきましょう。

### ●学校支援ボランティアは「無償」の活動です。

お礼は子どもたちの「笑顔」と「ありがとう」の言葉です。あなたの経験や知識、技術を地域の子どもたちのために活かしてください。



## 子どもたちの特徴

### 中学生

- ◆精神的に女子のほうがやや成長が早く、落ち着いてきます。
- ◆反抗したり自己主張したりするなど、変化が激しい時期です。
- ◆社会体験活動などを通して、自分の進路を考える時期です。



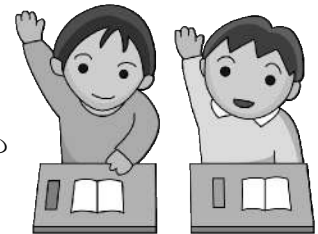
### 小学校高学年【5・6年生】

- ◆男子と女子の体格の変化が生じてくる時期です。
- ◆低学年と一緒に活動では、リーダーとして活躍します。
- ◆学習課題に向かって、計画的に学習が進められるようになります。



### 小学校中学年【3・4年生】

- ◆学習や運動に活発に取り組み、個性を発揮する時期です。
- ◆仲間意識が芽生え、学級やグループなどの組織的な活動にも意欲的に取り組みます。
- ◆体験活動などに主体的に参加するようになります。



### 小学校低学年【1・2年生】

- ◆何にでも興味や関心を示し、意欲的に取り組みます。
- ◆男女の区別なく仲良く遊んだり、活動したりできます。
- ◆学校生活のきまりや基本を多く学ぶ時期です。



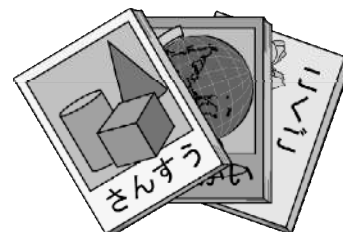
## 学校でよく使われる言葉・用語

### ●学習指導要領

文部科学省が全国で一定の教育水準を確保するために、各校種ごとに、各教科等の目標や内容などを定めた基準。

### ●教育課程

学校教育の内容を系統立てて配列したもの。



### ●学習指導案

教員が授業をどのように進めていくかを書いた、学習指導の計画書のこと。学習のめあてや内容、指導方法や時間配分などを書く。

### ●導入・展開・終末（1時間の授業の流れ）

導入：授業のはじめ。子どもたちに興味や関心を持たせるための準備段階

展開：授業の中心的部分。学習のねらいを追究するための活動段階

終末：授業の終わり。その学習のまとめをする段階



### ●評価

学習のねらいがどれだけ達成できたかを見極めること。

### ●総合的な学習の時間

小学校 3 年生以上から、自ら学び、自ら考える力の育成、学び方や調べ方を身につけることをねらいとして、各学校が創意工夫を生かしてこれまでの教科の枠をこえた学習ができる時間のこと。

### ●学生スクールサポーター

各教科の指導補助や、児童生徒とのふれあいを中心に、学校教育を支援する教員志望の大学生や大学院生。教育委員会から配置される。

### ●ゲストティーチャー

学校の要請により、授業の支援・補助を行う、専門的な知識や技能、経験をもつ人材。

### ●T・T（チームティーチング）

特定の教科で、学級の児童生徒の状況に応じて、複数の教師が協力して授業を行う指導法。例えば、主に授業を進める先生と児童生徒に個別に対応する先生が役割分担をして、子どもたちの個別の課題に応じた、きめ細かな指導を目指す。

## ●習熟度別学習

子どもの学力の差に応じて班に分け、少人数を対象に児童生徒の程度に合わせて行う授業。

## ●特別支援教育

通常学級に在籍する多動傾向・学習障害等も含め、障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、一人一人の教育的ニーズを把握し、もてる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う教育。

## ●学習障害（LD：Learning Disabilities）

基本的には知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する能力のうち、特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指す。  
（例）筆算で桁をそろえることが難しい。同じところを2回読んでしまう。

## ●多動傾向

授業中、じっとしていられなくて動き回るなどの行動をとることを特徴とすること。

## ●校外学習

児童生徒が学校外へ出かけ、実地で見学や体験を行う学習形態。



## ●授業公開デイズ（ウィーク）

保護者や地域の協力を得て安全対策を講じながら、自由に授業参観ができる期間。

## ●神戸っ子のびのびひろば

放課後の小学校施設等を活用して子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域の方が主体となって、子どもたちの自主的な遊びや学びを見守る活動。

## ●学校評議員制度

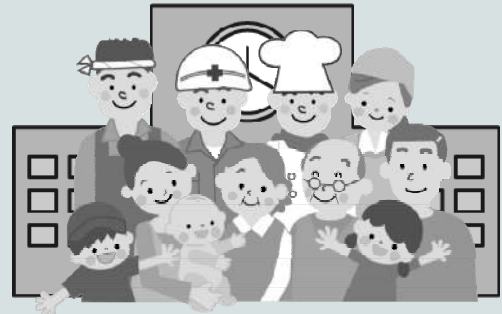
地域に開かれた学校づくりを推進する観点から、校長が学校運営に関し、保護者や地域住民等の意見を幅広く求めるために始まった制度。その役割として、①教育活動・学校運営への意見を述べる②保護者・地域との連携協力の橋渡し役としての役割を担う③学校関係者評価（外部評価）を行う などがある。





## 神戸っ子応援団 5つのポイント

- 対象は小学校1年生から中学校3年生まで
- 応援団のお世話役 地域コーディネーター
- 運営委員会の開催
- できる人ができる時にできることから
- 100の地域に100の応援団



### 【引用・参考文献】

- |   |           |
|---|-----------|
| 学校支援地域本部事業普及促進ハンドブック                      | 三菱総合研究所編  |
| 学校支援地域本部事業実践ハンドブック                        | 秋田県教育委員会編 |
| 学校支援ボランティア啓発ハンドブック<br>「あなたもできる学校支援ボランティア」 | 青森県教育庁編   |
| 神戸の学校支援地域本部実践事例集                          | 神戸市教育委員会編 |



このハンドブックは、「神戸っ子応援団」事業において、みなさんの手引きとして作成したものです。

学校・家庭・地域が一体となって、地域ぐるみで子どもたちを育むために、地域住民の方々がもつさまざまな力を学校の活動に活かしてください。

## 「神戸っ子応援団」事業      ハンドブック

平成 24 年 7 月発行

編集・発行 神戸市こども家庭局 子育て支援部 こども青少年課

〒650-8576 神戸市中央区加納町 6 丁目 5 番 1 号

電話：(078)322-6852・3

FAX：(078)322-6043

ホームページ：<http://www.city.kobe.lg.jp/child/young/supporters/>